

デカルト哲学

小泉義之

koizumi yoshiyuki



デカルト哲学

小泉義之

講談社学術文庫

小泉義之（こいずみ・よしゆき）

1954年札幌市生まれ。東京大学大学院人文科学研究科博士課程哲学専攻退学。現在、立命館大学教授。専攻は、哲学・倫理学。主な著書に『兵士デカルト』『弔いの哲学』『ドゥルーズの哲学』『生と病の哲学』など、共著に『なぜ人を殺してはいけないのか？』『ドゥルーズ／ガタリの現在』など、訳書にドゥルーズ『意味の論理学』など、多数。



定価はカバーに表示してあります。

デカルト^{てつがく}哲学

こいずみよしゆき
小泉義之

2014年4月10日 第1刷発行

発行者 鈴木 哲

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽 2-12-21 〒112-8001

電話 編集部 (03) 5395-3512

販売部 (03) 5395-5817

業務部 (03) 5395-3615

装 幀 蟹江征治

印 刷 株式会社廣濟堂

製 本 株式会社国宝社

本文データ制作 講談社デジタル製作部

© Yoshiyuki Koizumi 2014 Printed in Japan

落丁本・乱丁本は、購入書店名を明記のうえ、小社業務部宛にお送りください。送料小社負担にてお取替えします。なお、この本についてのお問い合わせは学術図書第一出版部学術文庫宛にお願いいたします。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。[R]（日本複製権センター委託出版物）

ISBN978-4-06-292231-9

JASRAC 出 1402501-401

目次

デカルト哲学

序章

思想を捨てる……………

10

死者に対する態度、生者に対する態度／遠くの死者／虚偽の資格／過去の死者／ほとんど虚偽の思想／死者のために

第一章

離脱道德——精神的生活と世俗的生活……………

22

複数の生活／飢えた子どもの前に／バンガラデシユとニューヨーク／良い生活と道德的生活／備えのための道德／約束の拒絶／契約社会の道德／精神的生活の純化／運命よりも自己を征服する／世界の秩序よりも自己の欲望を変える／奴隷の思想、貴族の思想／思惟だけが権内にある／外部の財／必然を徳となす／賢者としての病人／賢者としての囚人／罪のない満足

第二章

懷疑——世俗的生活からの脱落……………

60

思想の全面的破壊／感覚の正常性／否定できない感覚／正常と異常の分割を越えて／夢の懷疑／死にゆく者、生まれくる者／

離脱の困難／モンテーニュとパスカル／囚人の自由

第三章 死にゆく者の独我論

「我思う故に我在り」について／「私」と「コギト」／死にゆく練習／死にゆく私は存在する／「私」という語／言語論的解釈／国語使用者の存在／大人の「私」／子どもの「私」／死にゆく者の「私」／無ならぬ私／「私は何か」という問い／手で話す、手で見る／人体の解体／私と世界

第四章 哲学者の神

「神」という名／宇宙と世界／あらゆる事物を含むもの／太陽の存在の原因／世界の存在の原因／私の存在の原因／生まれくる私／最高善としての神／祈りと言語ゲーム／最高の宗教性／神学からのエチカ／人間の最高完全性

第五章 最高善と共通善——宗教の可能性……………

146

僅かな成果から／信と知／専門家の退廃／宗教に関与する根拠
／制度宗教を捨てる／国家宗教を捨てる／聖体の秘蹟／精神の
糧、身体の糧／聖母兄弟会のための闘争／慈善活動の発生／公
共性と共通善／神と共通善／共通善と「共通悪」／稀少性と共
通善／最高善・共通善・絆

第六章 賢者の現存——善く生きること……………

179

再び僅かな成果から／善く生きる／魂にとっての善／楽しく生
きる／魂と身体の合一にとっての善／いかに悲惨な生であつて
も／奴隷を高貴に／鉄鎖に繋がれた自由／政治の死滅へ／高貴
という情念／賢者の現存

終章 魂の不死、私の死……………

204

自然に死ぬこと／魂の不死の証明／勸善懲悪劇／『省察』にお

ける転回／死についての真実はない／宗教は死をスキップする
／時宜にかなった死

参照文献

あとがき

学術文庫版へのあとがき

デカルト哲学

小泉義之

講談社学術文庫

目次

デカルト哲学

序章

思想を捨てる……………

10

死者に対する態度、生者に対する態度／遠くの死者／虚偽の資格／過去の死者／ほとんど虚偽の思想／死者のために

第一章

離脱道德——精神的生活と世俗的生活……………

22

複数の生活／飢えた子どもの前に／バンガラデシユとニューヨーク／良い生活と道德的生活／備えのための道德／約束の拒絶／契約社会の道德／精神的生活の純化／運命よりも自己を征服する／世界の秩序よりも自己の欲望を変える／奴隷の思想、貴族の思想／思惟だけが権内にある／外部の財／必然を徳となす／賢者としての病人／賢者としての囚人／罪のない満足

第二章

懷疑——世俗的生活からの脱落……………

60

思想の全面的破壊／感覚の正常性／否定できない感覚／正常と異常の分割を越えて／夢の懷疑／死にゆく者、生まれくる者／

離脱の困難／モンテーニュとパスカル／囚人の自由

第三章 死にゆく者の独我論

「我思う故に我在り」について／「私」と「コギト」／死にゆく練習／死にゆく私は存在する／「私」という語／言語論的解釈／国語使用者の存在／大人の「私」／子どもの「私」／死にゆく者の「私」／無ならぬ私／「私は何か」という問い／手で話す、手で見る／人体の解体／私と世界

第四章 哲学者の神

「神」という名／宇宙と世界／あらゆる事物を含むもの／太陽の存在の原因／世界の存在の原因／私の存在の原因／生まれくる私／最高善としての神／祈りと言語ゲーム／最高の宗教性／神学からのエチカ／人間の最高完全性

第五章 最高善と共通善——宗教の可能性……………

146

僅かな成果から／信と知／専門家の退廃／宗教に関与する根拠
／制度宗教を捨てる／国家宗教を捨てる／聖体の秘蹟／精神の
糧、身体の糧／聖母兄弟会のための闘争／慈善活動の発生／公
共性と共通善／神と共通善／共通善と「共通悪」／稀少性と共
通善／最高善・共通善・絆

第六章 賢者の現存——善く生きること……………

179

再び僅かな成果から／善く生きる／魂にとっての善／楽しく生
きる／魂と身体の合一にとっての善／いかに悲惨な生であつて
も／奴隷を高貴に／鉄鎖に繋がれた自由／政治の死滅へ／高貴
という情念／賢者の現存

終章 魂の不死、私の死……………

204

自然に死ぬこと／魂の不死の証明／勸善懲悪劇／『省察』にお

ける転回／死についての真実はない／宗教は死をスキップする
／時宜にかなった死

参照文献……………217

あとがき……………220

学術文庫版へのあとがき……………221

デカルト哲学